

文化・芸術



「下落ち風景」

1920年ごろ、油彩、カンバス
53・0センチ×72・7センチ

曾宮一念 (1893～1994年)

曾宮一念は、絵画だけでなく随筆や短歌、書など、多彩な創作活動を行い、101歳という長寿を全うした孤高の画家です。大川美術館では、画家の没後、第12回二科展で長女の曾宮夕見氏から油彩画・素描・書84点をご寄贈いただき、これまで遺作展や生誕130年記念展を開催してきました。

その連作の一つである本作では、印象派やポスト印象派の影響をうかがわせる大胆な筆触と簡潔なフォルムにより、緑が多く、また牧歌的な風景が広がる下落ちが爽やかに表されています。(佐藤)

《名画の扉》

大川美術館コレクション展から